

1月から認定品表示 高い品質・安全性の証

自走式駐車場
工業会



大臣認定品表示板を持つ
飯島理事長

日本自走式駐車場工業会（飯島登美夫理事長）は、2018年1月から認定品表示板制度を開始する。加盟メーカー企業16社が設計・施工し国土交通大臣認定を受けた自走式立体駐車場に、「安全・安心」の証」として1月以降に建築主に引き渡す案件から、駐車場利用者らに見えやすい

場所に表示板を掲示する。認定駐車場は、構造の安全性や防災性の内容について、国の厳しい審査を受け、国の厳しい審査を受け、国土交通大臣による耐火建築物の認定を受けると同時に、構造耐力や防災避難、維持管理などに関する同工業会の自主基準にも沿った安全・安心な建物であり、①柱・梁（はり）などの鉄骨に耐火被覆を必要としない②緩和措置を受けて消化設備を簡易なものにできる③原則、外壁を設けない開放さ

れた構造で地震や津波に強い④工期短縮⑤コスト圧縮——などのメリットがあるという。11日に会見した飯島理事長は「東日本大震災では、津波からの避難施設としての役割も果たした。予測される南海トラフ地震に対しても効果が期待できる」とし、「高い安全性と優れた品質を身近に感じてもらうことで、自走式認定駐車場の社会的認知度の向上と普及を図りたい」と語った。

認定品表示板制度

18年1月から開始

日本自走式 駐車場工業会 信頼の証しアピール

日本自走式駐車場工業会（飯島登美夫理事長）は11日、自走式立体駐車場の「認定品表示板制度」を18年1月に始めると発表し、



表示板を手にする飯島理事長



た。会員企業16社が設計・施工した自走式立体駐車場に、国土交通相から耐火建築物の認定を受けたことを示す表示板を取り付ける。構造や防災関連に加え、維持管理に関する同工業会の基準をクリアした安全性と品質を備えた駐車場とし

て、一般市民や自治体に認知してもらう。スロープなどを利用して自動車を運転しながら目的階に駐車してもらう複数階の立体駐車場のうち、建築基準法に基づく耐火に関する大臣認定を受けた認定駐車場を対象。認定駐車場は柱や梁といった主要構造部の耐火被覆が不要で、緩和措置を受けているために

消火設備の設置が容易なことから、工期やコストを縮減できる特徴がある。外壁のない開放的な構造のため津波に強く、11年の東日本大震災では緊急避難場所として注目を集めた。救援物資の発着拠点にもなった。自走式立体駐車場は、郊外の大型商業施設や空港などで設置が進んでおり、高層で大型の施設も目立つよ

うになっている。自治体などからは認定駐車場の明示を期待する意見が寄せられていた。表示板は縦182ミ、横257ミのB5判サイズで、「国土交通大臣認定品」となったシンブルなデザイン。同工業会は、表示板を「信頼の証し」として運用する考えだ。飯島理事長は「（表示制度によって）

法人団体、自治体の認知を広げたい」と意欲を見せる。日常的に利用できる津波避難施設として活用されることも期待している。会員企業は、認定駐車場の整備を年間150件ほど行っている。表示板は新設の駐車場に設置していくが、既設の駐車場への表示についても今後検討するとい

平成 29 年 12 月 12 日

日刊建設工業新聞

立駐の「安全性」揭示

自走式工業会、利用者向け

日本自走式駐車場工業会（東京都港区、飯島登美夫理事長、03・3456・0781）は11日、日本建築センターで承認された自走式立体駐車場への認定品表示板制度を、2018年1月に始めると発表した。同制度は、認定駐車場が高い安全性や品質を備えていることを、利用者などに明示するためのもの。92年から16年末までに建設した自走式立体

駐車場数は、全国で累計約9300。壁を設けない構造のため、津波が通り抜けられる。また大人数を収容でき、スロープは車いすでも移動しやすいことから、04年の新潟県中越地震では実際に支援物資の発着拠点としても利用された。これを海トラフ地震に備え、受け、同工業会が認定を受けた駐車場について、認知を低いと感じている。今後予想される南



ての認知度を上げる活動を始めた。

飯島同工業会理事長（写真）

は「自走式立体駐車場が避難所となることへの認知が低いと感じている。今後予想される南海トラフ地震に備え、認知を広げたい」と抱負を述べた。

平成30年1月9日

商業施設新聞

(一社)日本自走式駐
 車場工業会(東京都港区
 芝5-26-20、☎03-
 3456-0781)は、
 1月から認定品表示板制
 度を開始した。同工業会
 に加盟するメーカー会員
 企業(16社)が設計・施
 工する自走式の認定駐車
 場に順次、認定品表示板
 (B5判サイズ、縦18
 2×横257㎜)を駐車
 場の利用者などが見やす
 い場所に表示する制度と
 して始めた。

同制度は、認定駐車場
 が建築基準法で定められ
 た構造の安全性や防災性
 の内容に関して、国の厳
 しい審査を受け、国土交
 通大臣による「耐火建築
 物」の認定(一般的に防
 耐火の認定といわれる)
 を受けたものであること
 を明示する制度。同認定
 を受けるために、同工業
 会での構造や防災、維持
 管理上の自主基準を満た
 した高い安全性や品質を
 備えていることを、認定
 品表示板を通して事業主
 や管理者、利用者など多
 くの人に理解されること

日本自走式駐車場工業会 認定品表示板制度を開始 防災で安全・安心を明示



認定品表示板

を目指すもの。

同制度によって、利用
 者をはじめ広く一般の人
 にも、認定駐車場が持つ
 高い安全性と、優れた品
 質を身近に感じてもらっ
 ことで、自走式認定駐車
 場の社会的認知度の向上
 と普及を目的とする。認
 定品表示板は、1月以降
 に竣工する認定駐車場
 で、施工主に引き渡す前
 に表示する。

自走式立体駐車場と
 は、複数階からなる立体
 駐車場、スロープなど
 を利用して、利用者自ら
 が自動車運転して走行
 させることにより、目的

の階の車室に
 駐車させる形
 式の駐車場と
 ある。また認
 定駐車場と
 は、同工業会
 に加盟するメ
 ーカー会員が
 設計・施工し、
 建築基準法に
 定める耐火火
 に関する国土
 交通大臣の認
 定(型式適合

認定を含む)を受けた自
 走式立体駐車場を指す。
 記者会見した同工業会
 理事長の飯島登美夫氏は
 「認定駐車場は、構造の
 安全性や防災性について
 国の厳しい審査を受け、
 構造耐力、防災避難、維
 持管理などに関して同工
 業会の自主基準にも沿っ
 た安全で安心な建築物で
 あり、今回の国土交通大
 臣「認定品表示板」はこ
 れを明示するための信頼
 の証となる」と話した。

認定駐車場は、①主要
 構造部である柱・梁(は
 り)などの鉄骨に耐火被
 覆を必要とせず、②防火
 区画や防火シャッター、
 泡消火設備を不要とする
 緩和措置を受けて消火設
 備を簡易にできること、
 ③原則として外壁を設け
 ない開放された構造であ
 り、地震や津波にも強い
 こと、④基本的仕様が決
 まっていることで工期
 間の短縮、さらに⑤建築
 費用の圧縮を図ることが
 できるなど多くの利点を
 持つ。

「火災時のフラッシュ
 オーバー現象を防止する
 ため、外壁を設けない構
 造であることから、別の
 水害時にも、津波など水
 流の力を受け流し、強い
 構造であることが確認さ
 れている。東日本大震災
 時には、大勢の人が自走
 式駐車場の上階に避難
 し、避難所としての役割
 も果たした。予測される
 南海トラフ地震に対しても
 効果を期待できる。駐
 車場内はスロープで移動
 できるため、車いすでも
 避難しやすい(同氏)。

認定駐車場は、199
 2(平成4)年から20
 16(平成28)年末まで
 の集計で、9300件
 (180万台分)存在す
 る。最近では年間150件
 (5万台分)ずつ増えて
 いる。商業施設や空港な
 どでの活用が多く、物件
 は大型化する傾向にあ
 る。「認定品表示板を、利
 用者用のエレベーター出
 入り口などに設置しても
 らい、安全・安心・高信
 頼の認知度と、駐車場の
 普及を高めたい(同氏)
 といい。

「認定品表示板を、利
 用者用のエレベーター出
 入り口などに設置しても
 らい、安全・安心・高信
 頼の認知度と、駐車場の
 普及を高めたい(同氏)
 といい。